

教育再生会議
第1回議事録

内閣官房教育再生会議担当室

第 1 回 教育再生会議 議事次第

日時：平成 18 年 10 月 18 日（水）8：45 ～ 9：48

場所：総理官邸大会議室

- 1 . 開 会
- 2 . 安倍内閣総理大臣挨拶
- 3 . 伊吹文部科学大臣挨拶
- 4 . 野依座長挨拶
- 5 . 討 議
- 6 . 閉 会

(報道関係者入室)

山谷総理補佐官 おはようございます。ただいまから第1回「教育再生会議」を開会させていただきます。議事進行を務めさせていただきます、内閣総理大臣補佐官の山谷えり子でございます。委員の皆様方におかれましては、御多忙のところ御出席を賜りまして、誠にありがとうございます。

まず、会議の開催に当たり、安倍内閣総理大臣からごあいさつをいただきたいと存じます。よろしく願いいたします。

安倍総理 おはようございます。第1回「教育再生会議」の開催に当たりまして、一言ごあいさつを申し上げます。

私は日本を美しい国にしていきたいと申し上げております。日本を活力とチャンスと優しさに満ちあふれ、世界に開かれた国にしていきたいと申し上げております。

第1番目は、歴史、伝統、自然、文化を大切にする国であります。

第2番目は、自由を基盤に規律を知る、凜とした国であります。

第3番目は、成長するエネルギーを持ち続ける国であります。

第4番目は、世界から信頼され、敬愛され、そして愛される、リーダーシップのある国であります。

そういう国を目指していきたいと考えております。そうした国をつくっていくための基盤は教育になるわけであります。志ある国民を育て、品格ある国家、社会をつくっていかねばならないと考えている次第でございます。その中で、教育の再生は極めて重要な課題であると認識しております。

このため、本日お集まりをいただきました皆様方、大変お忙しい中お引き受けをいただきましたことを、本当に感謝申し上げる次第でございます。この教育再生会議を私の下に設置することになりまして、そのことに対しまして御理解をいただきましたことを、重ねて御礼を申し上げます。

まさに、我が国の英知を結集したものになっていると自負しているところでございます。今後ともどうぞよろしく願いいたします。

この機会に教育再生に向けて、皆様方に御検討をお願いしたい点につきまして、私の考えを述べさせていただきたいと思っております。

まず教育再生の最終的な大目標として、すべての子どもに高い学力と規範意識を身に付ける機会を保障することであります。そのために、公教育の再生や、家庭・地域の教育力の再生が重要であると考えております。

具体的には、まず第一に質の高い教育を提供し、学力の向上を図る方策を御検討願いたいと存じます。必要な授業時間数を十分に確保し、基礎的な学力を確実に身に付けさせることが必要であります。

また、教員の質の向上に向けて、教員免許の更新制度を導入するとともに、学校同士が切磋琢磨し、学校運営をより良くするため、外部評価を含めた学校評価制度の導入が必要

と考えております。

第二に、規範意識や情操を身に付けた、「美しい人づくり」のための方策を御議論いただきたいと考えております。体験活動や奉仕活動を行ったり、読書に親しんだりすることにより、人間性や社会性を磨くことが必要であると考えております。基本的な生活習慣を身に付け、学校の規律を確立することが求められております。

更に、我が国の伝統や分野について学ぶことも重要であります。

第三に、家庭や地域の教育力を高め、だれもが「家族、ふるさと、このすばらしきもの」と思えるよう、地域ぐるみの教育を再生するための方策を御検討いただきたいと考えております。

子どもを育む家庭や地域の大人の在り方、すなわち子育てや働き方、企業の在り方なども含め、政府全体、社会全体として取り組むべき事項についても取り上げていただきたいと思っております。

以上、私の考えの一端を申し述べさせていただきましたが、このような施策を着実に実行し、教育再生に全力で取り組みながら、更に大学・大学院の国際競争力の強化など、我が国が未来に向かって成長する基盤づくりに取り組みたいと考えております。皆様方から、これ以外のテーマにつきましても御提起いただければ幸いに存じます。

21世紀の日本にふさわしい教育体制を構築して、美しい国づくりを実現するため、幅広い視野から教育再生のための抜本的な施策を検討していただきたいとお願い申し上げます。

教育再生会議の座長には、野依良治さんに、また座長代理には池田守男さんにお引き受けいただくことで御快諾をいただきましたので、よろしくお願い申し上げます。

また、この会議の事務局長は、先ほどごあいさつされましたが、私の補佐官の山谷えり子さんが務めます。また、担当室長に義家弘介さんにお引き受けをいただいたところでございます。

私は、教育再生会議における議論の成果を踏まえ、国づくりの重要な基礎となる教育再生の推進に全力で取り組む所存でございます。

皆様方におかれましても、本当にお忙しい中、万障お繰り合わせをいただき、時間を割いていただいているところでございますが、どうかこの会議を通じまして、皆様方の御経験、また御見識を基本に御議論を深めていただきたいと思います。よろしくお願い申し上げます。

山谷総理補佐官 どうもありがとうございました。

続きまして、伊吹文部科学大臣からごあいさつをいただきたいと思っております。

伊吹文部科学大臣 皆さん、おはようございます。文部科学大臣をお預かりいたしております、伊吹でございます。有識者の委員の先生方には、それぞれ非常にお忙しい方々だと思いますが、当面の教育再生、そして10年、あるいは100年後の日本の国の在り方のために、こうしてお集まりをいただいたことを、心から感謝申し上げますとともに、ひと

つよろしく御協力をお願いいたしたいと思います。

日本の国のかたち、その中での教育の在り方について、ただいま総理からお話がありましたけれども、この点については安倍内閣は一致した考えを持っておりますので、閣内不統一は全くございませんから、私が更に言葉を添えることはございません。

居酒屋で談義をするときに、政治が悪いとか、教育が悪いということになると、話はもうそこで終わってしまうわけです。理想の日本人像というのは、多分おのおのの人生観、価値観によって違ってくると思いますし、日本の理想の国のかたちというのは、その政治家、政党の持っている基本理念によっておのおの違ってくると思います。しかし、ばらばらの価値観、考えを持っていては、集団の意思は決定できないわけですから、私たちは民主制という多数決のルールを使っているわけです。

教育の分野は、価値観によって大変評価が違ってくるだけに、幸い安倍総理と事務局をやっていただく山谷さんと私とは、おのおのが書いたもの、発言をしたものを読んでも、大体政治理念、価値観を共有していると思いますので、それだけに大勢の皆さんの御意見を謙虚に伺って、そして説得をしながら、最後は憲法によって行政権をお預かりしている内閣の共同責任において、安倍総理の決断を支えていくという方向で私も臨みたいと思っております。

2つ申し上げたいと思います。

1つは、社会保障や教育というのは、アダム・スミスの言う「見えざる手」に導かれる効率であるとか、損益計算書に表われた利益とか、こういうものを超えた価値。共生とか、国家の安定とか、こういうものを預かっていると言ってもいいと思います。

自衛力とか安全保障というと、これは政府がやるのは非常にわかりやすいんですが、社会保障や教育の分野は両者のグレーゾーンにあります。それをいいことに、教育関係の国民負担は、国と地方と合わせて20兆円ございます。その中で、ただいま総理が申しました義務教育に充てているお金は10兆円です。これが納税者の負託に応えられるように使われているかどうかということ。これがまず是非極めなければならないことです。

だから、大学を独立行政法人にしたり、議論されている学校の評価制、教員の免許制、バウチャー制、みんなここにかかってくる問題ですから「見えざる手」というものを大切にしながら、しかし、アダム・スミスが言っているように「見えざる手」を使う人の倫理観がございませんと、この分野はなかなか競争だけではうまくいかない。率直に言えば、村上ファンドが出てきて、ライブドアが出てきて、超一流の大学を出た経営者が預かっているメガバンクや巨大な損害保険会社に、あれだけの社会的な不公正が行われるということを考えますと、教育の分野をどうしていくかということ、ひとつ是非皆さんにお願いしたいと思います。

もう一つは、時代の流れ、かつては老後の生活保障、介護、医療、すべてを家庭内で預かっていましたけれども、これを若干の負担をすることによって、あるいは不十分な負担と言ってもいいかもわかりませんが、今は公に投げてしまっているわけです。そこで、い

る負担と給付の問題が社会保障において生じているのと同じように、教育の場においても家庭でしつけをし、総理が申し上げた祖先が代々守ってきた社会規範を教え込みながら、地域社会で温かく子どもをくるみ、そして学校で知恵を教えるという状況が崩壊しているということです。核家族化になり、共働きになり、家庭の教育力が非常に落ちている。そして地域社会が崩壊し始めている。

その中で、今、学校にすべての重荷がかかっているという状態を、どう解きほぐしていくのか。これは文部科学省だけでは、とても力の及ばない分野でございますので、広い視野で是非先生方の御意見を伺わせていただき、安倍総理のリーダーシップの下で内閣一丸となって、100年後でしか効果が出てこないと思いますが、それだけに今、手を打たねばならないことでもありますので、私も内閣の一員として全力を挙げてこの再生会議の御意見を実現していくように頑張りたいと思いますので、どうぞよろしく御協力をお願いいたします。

ありがとうございました。

山谷総理補佐官 ありがとうございました。

それでは、総理官邸からの出席者を御紹介いたします。

塩崎恭久内閣官房長官です。

下村博文内閣官房副長官です。

鈴木政二内閣官房副長官です。

的場順三内閣官房副長官です。

次に文部科学省からの出席者を御紹介いたします。

池坊保子文部科学副大臣です。

また、大変恐縮でございますが、有識者の皆様方の御紹介につきましては、お手元にお配りしております有識者名簿をもって代えさせていただきます。

続きまして、野依良治座長からごあいさつをいただきたいと存じます。

よろしく願いいたします。

野依座長 教育再生会議の座長を仰せつかりました、野依良治でございます。何卒よろしく願いいたしたいと思っております。議事を進める前に、一言ごあいさつを申し上げます。

我が国は、古来より国民の識字率も非常に高く、知識欲も大変旺盛で、更に読み書きそろばんを中心とした寺小屋などの普及が基盤となりまして、教育が急速に発展いたしました。この特質こそが、天然資源に恵まれない我が国が近代化を成し遂げて、更に戦後の奇跡的な経済成長を成し遂げる非常に大きな原動力になるなど、教育が今日の我々の社会に果たした役割は、極めて大きいものがございます。

しかしながら、子どもを取り巻く昨今の状況を見ますと、都市化、過疎化、あるいは少子高齢化が進む中で、祖父母世代を含めた家族や地域の触れ合いが減少し、更に人間関係をつくる力や集団の中での決まりを守る心、忍耐力、自発性などが低下している。これらのことが深刻と言わざるを得ないわけでございます。

また、グローバル化やIT化の到来で、世界が急速に結び付き、情報や知識が生み出す付加価値の重要性が格段に高まる中で、常に知的好奇心を持ち、自ら考え、概念をつくり出し、表現する力を養いながら、世界に伍して活躍できる、たくましく、しなやかな人材を育成することが極めて重要であると思っております。

私は、これからの子どもたちが、しっかりとした規範意識と、自ら生きていく力を核にしまして、一人ひとりがまっとうな自然観、社会観、人生観を持つこと。そして、膨大な情報“Information”を体系的に整理して、知識“Knowledge”として、更に高い文化力に基づく創造性を発揮して、知恵“Wisdom”へと昇華する実践的な力を身に付けることを、特に求めたいと思っております。

この実現のためには、初等教育から高等教育まで一貫した取組みと、学校のみならず家庭、地域、経済界、産業界、メディアを含めたあらゆるセクターが責任を他に押し付けることなく、共同して未来世代を育成するという強い意思を持ち、そして確実な行動をすることが強く求められると思えます。

今回お集まりの有識者の方々は、いずれも各界を代表し、活躍されている方ばかりでございます。会議におきまして、さまざまな視点から忌憚のない議論が展開できればと願っております。

さて、我が国は四方を海に囲まれ、古来より多様な文化や文明と交流し、これらを受容しつつ、美しい自然と調和した独自の文化を形成してまいりました。先達が培ってまいりました文化は、今後とも日本人の心のよりどころであります。同時に、現代文明の礎は科学技術にあり、多くの人々が人間の限界に挑み、更にそれを超越する技術を創造することによって、我が国の社会に豊かさがもたらされ、国際競争力の源となっております。

一方で、地球の有限な枠組みを超えた、過大な人間活動の暴走が、深刻な気候変動と環境変化、更に資源とエネルギーの枯渇などの問題を提起し、人類を危機に陥れていると見ております。

いずれにいたしましても、私は文化を尊ぶ文明の構築こそが、21世紀の人類の課題であり、その実現に向けて志を持つ若者たちを育てなければいけないと考えております。

人間はもとより、国家も社会的な生き物です。36億年の歴史を持つ生物界の鉄則に照らしてみれば、決して強い者が生き残るのではありません。強大な生き物たちが次々に地上から姿を消していく中で、常に変化し、進化し、そして環境に適応できるものだけが生き続けることができるのであります。激変する国際社会の中で、日本人と我が国がどうあるべきか、現実を直視するとともに、未来社会を読む力が求められると思えます。

私は日本人は素晴らしい国民性を持っていると思えます。子どもたちがしっかりとした規範意識を持ち、夢や目標を抱き続け、自信を持って知の時代を有意義に生き抜き、そして総理の目指す「美しい国、日本」を実現する次世代を育成する上で、実りのある成果が上がりそうですよう、微力ながら座長として最大限の努力をしてみたいと思っております。

皆様方の御理解と御協力を、何とぞよろしくお願い申し上げます。

どうもありがとうございました。

(報道関係者退室)

山谷総理補佐官 それでは、これからの議事進行は、野依座長にお願いしたいと思いません。

野依座長 それでは、山谷内閣総理大臣補佐官に代わりまして議事進行を務めさせていただきます。

まず、今後の会議につきましては、私は全力で可能な限り毎回出席する予定でございますけれども、やむを得ない場合には、座長代理をお引き受けいただいております、池田守男委員に座長役をお願いしたいと思いますので、よろしくお願い申し上げます。

また、この会議につきましては、会議自体は原則非公開といたしますけれども、毎回会議の終了後に池田座長代理、山谷内閣総理大臣補佐官によりまして、会議の内容についてブリーフィングを行うとともに、後日議事要旨を作成して公開させていただくということでございます。

更に皆様にご覧いただきまして、御了承いただいた上で、議事録についても公開させていただくということになっておりますので、よろしくお願いいたします。

なお、本件につきまして事務局にお願いがございます。本会議は多くの国民の注目の的でございます。会議の議論を基に、国民に対して前向きかつ明快なメッセージを伝える必要があるかと思っております。議論は時として特定の事象の甲論乙駁に終始いたします。また、余りに詳細にわたり過ぎるきらいがございますが、これらの記録、記述だけでは、国民の期待に応えることにはなりません。今回の会議におきましては、節目節目において議論の内容をとりまとめていただき、その際には内容を理念的に整理していただきまして、明快かつ格調高い表現としていただきたいと思います。最高の文筆力を持つスタッフの御助力をお願いしたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

それでは、議事に入らせていただきます。

本日は、第1回の会議でございますので、有識者の皆様方全員から自己紹介も兼ねまして、それぞれ2分以内で教育再生について順次御発言いただきたいと思います。総理ほか、大変御多用でございます。後が詰まっておりますので、2分以内を厳守でお願いしたいと思います。

まず、座長代理で経済界御出身の池田守男委員に御発言いただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

池田座長代理 座長代理を仰せつかりました、池田でございます。この社会環境の中で一番重要な教育再生という形で、こういう役割を頂戴いたしましたことを、大変感謝しております。

私は四十数年ほど前に、奈良の薬師寺の監主でありました、高田好胤さんにお目にかかりましたときに、このままで日本が進んでいくと、必ずや物で栄えるかもわからないけれども心で滅びる。そういうことを四十数年前から警鐘を鳴らしておられました。私は、常

にその言葉が頭に残っておりまして、今日の社会状況、あるいは教育の現状を見ておりますと、本当に心で滅びるということに尽きるような気がいたしまして、大変危機感を持っておりました。

そういうときに、こういう機会を持っていただき、あるいは一員として参画させていただけるということは、大変ありがたいことでございます。

特に私は心の教育ということを中心に皆様方と御一緒に論議をさせていただいて、将来を担う若者の夢と希望、あるいはそれに基づく志、それを育む教育の現場というもの、あるいはインフラといったものをつくらせていただくことの出発点にさせていただければ大変ありがたいと思っております。

どうぞよろしく願いいたします。

野依座長 ありがとうございます。

それでは、担当室長をお務めいただきます、横浜市教育委員の義家弘介委員にお願いしたいと思います。よろしく願いいたします。

義家委員 おはようございます。義家です。これまで、様々な子どもたち、保護者たち、そしてまた先生方と向き合ってきた中で、希望もあれば、一方でこのままではどうしようもないという実情も目の当たりにしてまいりました。

私は、一昨年まで北海道にある小さな公教育からあふれてきた子どもたちとともに歩んできましたけれども、まず基礎学力のない子どもは、せっかく立ち直っても出口で選択肢がない。規範意識のない子どもは、せっかくやり直そうと決意してきても、途中で中退してってしまう。そして、ずっといじめられてきた子は学校が選べずに、その学区に進学せざるを得なくて不登校になる。この公教育の問題を、遠く北海道の地からずっと考えてきました。

そして、去年横浜に10年ぶりに戻りまして、連日様々な市内の学校を回って、その実情をかいま見てきました。それを是非議論に活かしていけたらと思います。

今、いじめの問題も深刻化していますけれども、地方教育行政法という法律が改正されて、以前は文部科学大臣は適正を欠き、教育本来の目的達成を阻害していると認められるときは、是正措置を取ることができるという52条の条文があったと思うのですが、それが地方分権改革によって削除されている。つまり各自治体の教育委員会に委ねられている現実。ならば、その教育委員会の実態はどうなっているのかと言えば、一部では組合の推薦がなかったら教育委員になれない。事務方と教育委員会と組合がつながってしまい、改革が遅れる。あるいは隠蔽がはびこってしまっているという現状の中で、そこをまずどう改革していくのか。これが焦眉の課題であると考えております。

若干35歳で責任ある立場を任せていただいたということは、これからの教育界で私はまだ30年生きていきますけれども、ここで出されるものに責任を持って生きていけという首相の期待であると重く受け止めて、これからも必死で人生をかけてやっていきたいと思っております。

どうぞよろしく願いいたします。

野依座長 よろしく願いいたします。

それでは、文化芸術関係の浅利慶太委員、よろしく願いいたします。

浅利委員 浅利でございます。よろしく願いいたします。

私は劇団四季という劇団を五十以上やっておりまして、今「異国の丘」というミュージカルを全国で公演しております。既に5年間で4百回以上上演してありますが、これは近衛文麿さんのご長男文隆さんをモデルにしておりまして、劇中では九重秀隆という名前にしてあります。この主人公は11年間シベリアに抑留され、日ソ国交回復で全員復員できるというときに、ソ連当局によって薬殺されシベリアの地に眠ります。彼が病床で遺言を述べる場面があります。「私たちの世代は敗戦で多くを喪った。だが心だけは残っている」と。そして、「国敗れて山河あり、父母を敬い、兄弟結ばれ、妻を愛し、友を信じ、幼きを護れ、愛しきものたちよ」と歌います。「幼きを護れ」は私が付け足しましたが、それ以外は少年時代に私たちが教わった徳目を述べただけです。「父母二孝二兄弟二友二夫婦相和シ、朋友相信シ」というものです。これを上演したら、恐らく多くの批判やバッシングが来るだろうことを覚悟でございましたが、一切ありませんでした。すべてが受け入れられて、お客様は感動してくださった。それは当たり前で、この徳目が我々日本人の基本的なものの考え方だからなのです。思想が右とか左とか関係なく、すべての日本人が共有するものです。これを何としてでも今の子どもたちに伝えたい。それが教育再生会議に参加させていただいた私の目的であります。どうぞよろしく願いいたします。

野依座長 ありがとうございます。

それでは、席順の右回りで次々に御発言をお願いしたいと思います。まず海老名香葉子委員、よろしく願いいたします。

海老名委員 恐らく、私がこの会の中で一番学歴のない者でございます。戦災孤児でございました。義務教育も受けておりません。思いますに、子どもたちにどんどん教育だけは受けさせたい。学校教育は受けさせたいという一念でございます。

そして、今、一番大事なものは学校教育以前のものです。親孝行という言葉が死語にされつつあります。親孝行という言葉をごんごん使わなければいけないと思います。孝心は情の原点だろうと思います。孝行しながら育った子が親になれば、いい子を育てます。いい子が育てば向上心も芽生えますし、立派な学生になります。ですから、できるだけ孝行する子。孝行は、してもうれしい、されてもうれしいと思います。ですから、親孝行は美しいと思います。美しい子を育ててほしいという思いでございます。

学校教育以前に親が一生懸命になって、親孝行の子どもをこれからはつくらなくてはいけないだろうと思います。

以上でございます。

野依座長 ありがとうございます。

それでは、小野元之委員、よろしく願いいたします。

小野委員 私は2点ございます。

まず1点目は、文科省も含めてですが、教育委員会や学校が建前を余りにも大事にし、きれいごとが多すぎるのです。公立義務教育諸学校を、国民に本当に信頼される、安心して任せられる学校にしなければいけないというのが一番大事だと思うのですけれども、いじめがあってもそれがなかなか表に出てこなかったり、さまざまな課題がございます。

そういう意味で、できるだけオープンにして、外部の意見も取り入れながら教育界を刷新していくことが必要ではなからうかと思っております。

もう一つは、皆さん方の御意見もあるわけですが、親が子どもを橋から突き落したり、子どもが30万円で親を殺すことを頼んだり、こういったことが許される社会であってはいけないと思います。今、家庭の教育力が落ちていると言われておりますけれども、やはり学校と家庭と地域の教育力も落ちているので、学校と家庭と社会が協力し合って、人間として最低限これはしなければいけない。このことは絶対してはいけないということをしっかり義務教育で教えていくことが必要ではないでしょうか。人間の基本をしっかり叩き込むという言い方はよくないかもしれませんが、幼いときにはある程度しっかり教えなければいけないのではないかと思っております。

そういう意味で、学校が余りにも悪平等で閉鎖的だったりいたしますので、ボランティア活動をもっと進めるとか、あるいは学校外の教育資源をもっともっと学校に活用するかということを進めていって、他人や家族や社会や国を大事にする。公というものを大事にする子どもたちを是非育てたい。そのためには、教育の質を高めていく。問題教員は排除していくことも必要ではなからうかと思っております。

そういった改革を進める中で、最終的には高校や大学を卒業した時点での子どもたちの資質が、社会に信用されているかどうか。大学を卒業した時点、高校を卒業した時点で、学力、意欲、体力、人間性、そういったものが十分育っているかどうか。社会で卒業生の質が保証できるような学力向上にも取り組むべきではないかと思っております。

以上です。

野依座長 ありがとうございます。

それでは、陰山英男委員、よろしく願いいたします。

陰山委員 立命館大学の陰山でございます。よろしく願いいたします。

実は私は今日、日本の学力問題を象徴する一冊の本を持ってまいりました。これを是非とも総理始め皆さんに見ていただきたいと思って持ってまいりました。これは、この春まで私の息子が行っておりました中学校の地理の教科書でございます。その地理の教科書の中で、世界の国々が何か国記述されているか皆さん御存じでしょうか。3か国です。そして、書かれている国は、アメリカ、フランス、マレーシアです。中国も韓国も、勿論北朝鮮もありません。そして、フランス文化の記述ではルーブル美術館は書いてありませんけれども、書いてあるのはフランス料理です。信じられないかもしれませんが、フランス料理のメニューが出ています。興味、関心欲を大切にすることは、こういうこ

とになっております。

都道府県名を学習することは、現在義務教育ではもう既にありません。その結果、現在富士山の位置がわからない教員志望者が国公立で2割、私学にあっては6割であります。来年から富士山の位置がわからない教員が学校現場に入ってまいります。これはもう止めようのない現実であります。

ですから、本当に100年後というのではなく、私はもう今すぐにもやらなければいけないと思っています。中教審でもこのことは大分議論しましたけれども、安倍総理がおっしゃっておられるように、もうこの答申を現実化しようと思ったら3年かかってしまうのです。今すぐにもやれることが幾つもありますので、是非ともそれを実行に移させていただきたいというのが、私の願いであります。

もう既に山口県山陽小野田市、高知県室戸市、京都府八幡市では、すぐに学力向上プログラムをやる状態で、もう準備に入っております。室戸市の教育長さんが昨日、高知県の教育委員会の方にやらせてほしいというふうに直訴されましたけれども、現在の指導要領の枠組みを一部曲げることになりますので、国の指示があればOKだという返事でした。もう今日、OKだけ言っていただければ、私は明日からでもやっていただこうと思っておりますので、それも本当にごく一部なのです。そういうことを是非お願いしたい。もう一点、生活習慣の問題でございます。生活習慣につきましても、今、親子問題等いろいろございましたけれども、何とも国の力でこれがよくなるような方向で御努力いただければと思います。

どうもありがとうございました。

野依座長 ありがとうございました。

それでは、葛西敬之委員、よろしく願いいたします。

葛西委員 葛西でございます。私は、この席に御一緒にいらっしゃいます、トヨタ自動車の張会長、その他民間企業の経営者たちが集まりまして、今年の4月から海陽学園という中高一貫校を開校しました。学校教育の使命を考えると、「学ぶ」ということと、「思う」ということと、「行う」ということのバランスが大事だと思います。「学びて思わざれば則ち罔し、思いて学ばざれば則ち殆し」。更に「不言実行」ですとか、「知行合一」ですとか、いろいろな言葉がありますが、3つのバランスを取らなければいけないと思います。そしてこのバランスが不全であることが問題の原点です。

やはり公教育、初等教育でまず第一に学ぶことは「読み・書き・そろばん」などの基礎知識だと思います。そして「思う」というのは、子どもたちにとっては自由な空想であり、それは、読書によってはぐくまれるものだと思います。また、「行う」というのは、学校の子どもたちにとってみれば、遊んだり、あるいはスポーツをしたり、自然を体験することなのだと思います。今の教育の中で最大の問題というのは、小中学校で基礎知識を徹底的、効率的に学ばせないため、子ども達は放課後に塾で勉強することが日常となっており、その結果として「思う」「行う」といった他のことに充当する時間がなくなって

しまっていると思います。

先ほど総理から御指示がございましたように、学校教育のレベルを上げ、効率を上げて、そしてその他のことに取り組める時間をつくってあげることが大切だというのが、海陽学園のねらいであります。

そして効率を上げるためには、先生の資質が高いこと、情熱を持って教えるということと、規律を守らせるということが非常に大切であります。いかに規律を守らせるかという点において、日本の教育は今まで欠けていたのではないかということで「海陽学園」では、全寮制を採用し、生徒20人に1人の各企業から派遣された独身の男性社員が、1年間生徒と寝食を共にして指導する仕組みを実験しておりますが、これは何らかの参考になるかもしれませんが、また多くの学校にとって、そこまではなかなか手が届かないという特殊な例になるかもしれません。しかし、問題意識は同じではないかと思います。一生懸命やりたいと思います。

野依座長 どうもありがとうございました。

それでは、門川大作委員、よろしく願いいたします。

門川委員 京都市の門川でございます。公教育の再生ということを国政の最重要課題として取り組んでいただくことに現場の教育長として本当に、心強く思っております。学校、家庭、地域の教育力の向上が大事であります。学校が、そのための役割を果たさなければならぬわけですが、親と地域が変わらなければ、子どもは変わらないということをも実感しております。その三者が足りないところを批判し合うのではなく、足りないところを足し合う、そして相互に高め合う。そんな仕組み、きっかけづくりが大事ではないかと思います。連携と共同行動が求められております。

ただ、私どもは連携というと相手にまず求めてしまう。連携というのは、情報を共有し、課題意識、危機感を共有すると同時に自己変革である。自ら変わらなければ相手が変わらないということで、教職員の意識・行動改革を進め、開かれた学校にしていこうと、学校評議員制度でありますとか外部評価、あるいは京都方式での学校運営協議会の拡大等をしてきました。改革はまだ緒についたばかりですけれども、お蔭様で2万人のボランティアが、何らかの形で学校教育に関わっていただき、子どもたちの安心、安全に取り組んでいただくようになってきました。

ただ、現実には、まだまだたくさん問題があります。確かに現場に問題があります。同時に、現場に答えもあります。解決への糸口もあります。教職員、親、あるいは地域の潜在能力をどう引き出し、モチベーションを高めていくか。そのために経済界も含めた大人社会全体がともに協力していただき、そんな仕組みづくりが重要ではないかと考えております。

同時に、たくさんの予算を今、公教育のために使っていただいていることも事実でありますけれども、公的教育費のGDP比率がOECDや主要先進国で最下位であることも事実でありますので、公教育充実のための財政制度も議論していただきたいと思っております。

す。

以上です。

野依座長 ありがとうございます。

それでは、川勝平太委員、よろしく願いいたします。

川勝委員 国際日本文化研究センターの川勝平太です。日本文化を世界に発信する日本で最大の研究機関です。学際的、国際的、総合的に日本を世界に発信していく機関に勤めております。

私は、安倍総理の美しい国づくりという理念に賛同しております。美しいというのは、国のたたずまいと心の形の両方を含むものだと思います。その意味で、伊吹先生の言われる規範意識の重要性にも共感しております。

一方、日本は科学技術が非西洋圏で最高のレベルを持っております。その意味で、科学技術を無視した教育はあり得ないという意味で、野依先生の理念にも賛同しております。

美しい国づくりというのは、これまでの言わば強い国づくりからの一種の旅立ちであると思います。富国強兵の強い国づくり、これは明治時代に学問から始まりました。それは、実学と言われました、ヨーロッパの学問を学ぶということです。これは、それなりの役割を終えたのではないかと思います。美しい国づくりには、それに応じた学問、新しい実学が要るでしょう。それ以前の江戸時代は、武士道に代表される心の正しい国づくりといいますが、礼儀正しい、廉恥心のある人間を育てるという学問をした、これは儒学によって基礎づけられたと思います。江戸時代は、正しい国づくりの基礎としての儒学があり、明治以降は強い国づくりの基礎としての実学というものがあって、これからはそれらを総合して日本が美しい国づくりをしていかねばならない。そのためには地についた学問でなければなりません。言い換えれば、地域に根差した学問でなければならぬので、家庭や地域が重要性です。

さて、日本の教育制度は、大学から崩壊していきました。大学が1960年代に授業を放棄し、それがやがてしらの風潮をもたらし、大学はレジャーランドと化して、次いで高校での校内暴力になりまして、そして小・中学校で学校崩壊が起こりました。したがって、幼教育から大事でありますけれども、出口が大事です。出口で必要なのは、これからは日本において教育はしますけれども、これは日本の青年だけのためではなくて、内外の青年のためにもしなければいけない。その意味で、出口の国際化が急務で、日本の国づくりの一番のトップにある東京大学の学長、そのほか国立大学の学長がすべて日本人であることはおかしいのです。

こういう鎖国的な大学の状況を突き破るための教育改革をこれからやっていかねばならないと考えております。

野依座長 ありがとうございます。

それでは、小谷実可子委員、よろしく願いいたします。

小谷委員 初めまして、小谷実可子と申します。

私は一番教育を受けなければいけない時期に、ほとんど水の中で過ごしてありましたので、本当にこういうところのお仲間に入れていただくのは恥ずかしい気持ちと、また非常に光栄な気持ちです。

選手を引退しましてから、小・中・高校生を中心としたシンク口の教室をずっとやってきたんですけれども、それは選手育成ではなくて、私が余り勉強しなかった分、人生をかけたシンク口という手段を使って、何か子どもに学んでもらいたいという気持ちなのですけれども、大会のためではなくて本当に手づくりのお父さん方、お母さん方が、衣装や舞台装置、照明などをやっていただく中で、子どもが年に1回成果を発表するだけなのですけれども、やはりいろんな年齢の子どもたちがそろった中で、自然と子どもたちは助け合い、励まし合い、時にはけんかしながら育っていく姿、それぞれ学校に行くといじめに遭ったり、先生とうまくいかなかったり、登校拒否に遭ったり、いろんな苦しみを乗り越えている子がいます。

そういう子どもたちが何年か経ったときに、ある日プールに来る途中で畑があるらしいのですけれども、「先生、私、今日あそこで見た夕日がすごくきれいだった、今まで毎日ここを同じ時間に通っていたのに、夕日がこんなにきれいだって初めて知った」ということを、言ってくれたときに、きっとこの子の心の中は今、充実しているんだなと。それよって夕日に目が行くようになったのだということを非常にうれしく思いました。　こういう子どもに携わっている根源になったのは、実は選手を引退してからイルカと泳いだときにあった経験なのですが、それを話し出すととても2分では終わらないので、中身は追ってちびちび御紹介しますけれども、私の場合はシンク口という競技を一生懸命無心でやった結果として、心の中が無になれたというか、何かを一生懸命やることで人に感謝をすることか、親にありがとうとか、人に優しくという気持ちは中から出てくるものだと思いますので、そういう状態を子どもたちにつくってあげるために何ができるか、皆様とともに勉強させていただきながら頑張りたいと思います。

野依座長　ありがとうございました。

それでは、小宮山宏委員、よろしく願いいたします。

小宮山委員　2点、申し上げたいと思います。

第1点は、私は学生には常々本質をとらえる知、他者を感じる力、先頭に立つ勇気を持ってと機会をとらえて言っておりますけれども、これは皆さんが今までにおっしゃったことと非常に共通点があるので、今日は繰り返しません。また時間があるきに、ぼちぼち申し上げたいと思います。

第2点は、世界的視点でものを見るということと、教育における答えは日本の独特のものをつくっていくべきという2点が重要だと思います。私、OECDに5年ほど出ておりましたが、実に多くのことが先進国で共通です。人間力が失われてきているとか、若者の理科離れとか、本当に共通です。これは、恐らく文明化ということの影響、具体的には少子化であるとか、都市化、過疎化といったようなことの結果なんだろうと思います。

ただ、どうやって教育に対する答えを出していくか。これはやはり国の状況がそれぞれ違うから、あそこのものをまねしてくればいいというものはない。だから、これは日本独特のものを考えていかなければならない。それを議論するのがこの場ではないかと思っております。

よろしく願いいたします。

野依座長 ありがとうございます。

それでは、品川裕香委員、よろしく願いいたします。

品川委員 おはようございます。品川裕香といいます。よろしく願いいたします。

私が普段取材している子どもたちは、学び方の違いから勉強ができなかったり、いじめの被害者であったり、加害者であったり、不登校になったり、うつになったり、非行少年だったり、就職できなかったり、就職しても続かなかったりと、何らかの生きにくさを持っています。

背景には、いじめや虐待といった暴力もあれば、発達障害といった本来持って生まれた育ちにくさというものもあったりしています。

私がずっとこういった取材を続けているきっかけとなっているのは、2つの事件がありました。

1つは、小学校5年生のADHDと診断された男の子が自殺した事件です。そのときに小5の子どもの遺書というのを初めて見まして、とてもショックを受けました。それは漢字テストの裏に「死ぬ、死ぬ、死にたい」と書かれてあったのですが、教師は、少年が亡くなって1週間経ってから保護者に持参しました。それを見たときに、どういう思いでこれを書いたのだろうと胸が痛んだのが一つです。

もう一つは、少年院の取材をしたときに、取材する子がみんな、少年院に入ってよかったと言うんです。それまで自分は生きていてもしょうがないと思った。学校に来るなど言われた。いいことは何もなかったのに、少年院に来て初めて信頼できる大人に会えたと言うのです。それは一体どういうことだろうと、そういうことを言わせる教育とは何なのだろうということが今の私をつくっています。

この会議では、私が取材してきた教育の現場であるとか、そういった子どもたちの思いなどのファクトとともに、日本の教育の中には成功事例もいっぱいありますので、そういった成功事例も合わせて紹介していきたいと思えます。

また、アメリカ、イギリス、スウェーデンなど、海外の公教育も取材しておりますので、国内外のノウハウもお伝えできればいいと思っております。

取材を通じて、教育に求めることは、知力と体力は言うまでもなく、もう一つレジリエンスと申しますか、弾力のある子どもをいかに育てていくかが大事だと痛感しています。弾力というのは、不幸をはね返す力なのですが、そういった視点を改革の中に入れていただきたいということと、学力向上のためにも子どもの成長・発達権を保障するという視点を持っていただきたいと思えます。それから、教育の原点は社会化だと考えますので、社

会のルールという規範意識と生きるスキルを身に付ける教育をどうやって構築していくか。

それから、子どもの多様な認知と学習スタイルを、どうやって教育の現場に落とし込んでいくかが大事だと思っております。よろしくお願いいたします。

野依座長 ありがとうございます。

それでは、白石真澄委員、よろしくお願いいたします。

白石委員 東洋大学経済学部の白石でございます。どうぞよろしくお願いいたします。
大学の教員として、そして私自身も、高一、中二の2人の子どもの保護者として、ここ数年PTA活動などに関わってまいりました。

私の大学だけではなくて、他大学の先生とも意見交換をしておりますと、愕然とすることがございます。日本史が必修ではございませんので、日本の歴史を知らない学生たち、そして帯分数と言われるような理系では当然身に付けておくような基礎知識がない。私が教育委員をしております高校では、小学校4年生レベルの問題までさかのぼらないといろんな問題が解けないという事態も出ていて、高校の学習指導要領などに縛られていては、その子たちの遅れた分を取り返すことができないという事態もございます。

総理がおっしゃいますように、すべての子どもたちが等しく高い学力を身に付けていくためには、なかなか王道はないわけでございますけれども、家庭の中で学習習慣を付けるということと、児童や生徒が最も長い時間を過ごす学校教育の中で、これが等しく受けられるようにすることが大切だと思いますけれども、そのためには教育現場が規律と緊張感を持つこと。そして先生たちが自分たちの教育の成果である客観的な、そして科学的な評価軸を持つということ。更に教員、学校現場が自主性や創意工夫ができるような権限を移譲していく。そして、そこを保護者が自分の子どもの学力に応じた学校を選べるというような、さまざまな方法論が必要ではないかと思えます。

差し出がましゅうございますが、1点だけ会議の進め方として冒頭をお願いしたいと思います。これだけ17名の先生方がいらっしゃる中で、御興味、御関心の領域もバックグラウンドも非常にまちまちでございます。是非重要と思われるテーマをいくつか先に絞り込んでいただきまして、テーマごとの分科会設定、そして分科会ごとにコアメンバーを置くようにして、中身の濃い議論ができるようお願いしたいと思います。そして、従来の審議会方式だけではなく、各委員がペーパーを出せるような形で、積極的に発言できる機会を設けていただければと思います。

どうもありがとうございました。

野依座長 ありがとうございます。分科会はつくってまいりたいと思っております。よろしくお願いいたします。

それでは、張富士夫委員、よろしくお願いいたします。

張委員 時間がもうないものですから、ごく簡単に申し上げたいと思います。

私どもは、中卒、高卒、大卒の学生を受け取りまして、以後40年ぐらい仕事をやりながら人材育成ということでもやっておりますので、いわゆる出口の方の立場で今後いろんな

意見を申し上げさせていただきたいと思います。

同時に、教育は国民的な関心事でございますので、私の周りの経済界の人たちもいろんな意見を持っておりますので、そういう人たちの意見も集約してここにお伝えしたいと思っております。それから、私自身の経験もその中に入れてということで、今日もいろいろ申し上げたいことを持って来ましたが、これはまた次回からにさせていただきたいと思っております。

そういう立場で一生懸命頑張りますので、よろしく願いいたします。

野依座長 ありがとうございます。

それでは、中嶋嶺雄委員、よろしく願いいたします。

中嶋委員 ありがとうございます。国際教養大学という、秋田につくりました公立大学法人なんですが、副学長は外国人ですし、教員の60%は外国人で、すべての授業を英語でやっております。グローバルスタンダードの大学をつくっておりますので、年2回入学式をいたします。つい最近も秋入学をガウンを着てやりましたが、安倍首相の提言の中の9月入学ないしは秋入学は大変夢のあるものです。グローバルスタンダードに合わせるために、是非推進していただきたいと思っております。

時間の関係で2つだけ申し上げます。

1つは、教育基本法、これは実は中教審でも私、審議させていただきましたので、是非早急にこの教育基本法をきちんとしていただきたい。ただ、若干注文がございますのは、さっき格調高い文章というのがありましたが、ほんのちょっとだけでも修正すればいいのを、「他国を尊重し」ということになりますと、言わば核実験をやったばかりの国も「尊重し」になります。中華文明がチベット文化を押しつぶしている。そういう国も尊重しなければいけないので、そこは「理解し」とか、ちょっと直せばいいことですので、その上で是非早く実現することが日本の教育再生の根本だと思います。

もう一つは、話題の英語教育ですが、これは言わば総合教育の一環として日本の英語教育を根本的に立て直すということをししないと、もうこのまま、さっき安倍首相がおっしゃったような開かれた日本、リーダーシップを持つ日本になれないという立場で、塩崎さんのやられた外務省でもやっておりますし、実は文科省ではかなり技術的な、時間をどうするかとか、条件整備をどうするかとか、かなりいろいろ詰めがありますので、まだ中間発表の段階ですし、また皆様方の御意見を伺いたいと思っておりますので、ある程度よろしくお任せさせていただきたいと思っております。

野依座長 ありがとうございます。

それでは、最後に渡邊美樹委員、よろしく願いいたします。

渡邊委員 渡邊でございます。私はこの3年半で1,500人の生徒のいる、118年の歴史のある崩壊した学校を立て直した教育者としての経験。それから、就職活動におけるセミナーを開催し毎年1万人の大学の卒業生と触れ合っている経験からして、この日本の教育は崩壊したと思っております。

その中で、どうすればいいのか。英語が、国語がという問題ではなく、仕組みを変えることであるべき教育になってしまう、その仕組み、ルールが変わったことで現実が勝手に変わってってしまうというような根本的なパラダイムの転換みたいなものが必要だと思っております。

それは、私が今、考えるには、これは皆様にも考えていただきたいのですが、なぜ日本の教育が死んだのかというと、私の経験からは2つありまして、1つは競争原理が全く働いていない教育現場、もう一つは大学入試がゴールであって、大学卒業後がゴールでない教育の実態ということで、簡単に申し上げてバウチャーを導入して大学入試を廃止すれば、この国の教育は立ち上がると私は確信をしております。ですから、皆様にそのような御意見を聞きながら進めさせていただきたいと思っております。

どうもありがとうございます。

野依座長 どうもありがとうございました。それぞれの先生方から、大変見識のある、またバラエティーに富む御意見を賜りまして、大変ありがとうございました。

今日は総理、文部科学大臣始め、御多用な方ばかりでございますので、本日の第1回の会議はここで閉会させていただきたいと思っております。

第2回の会合は、来週10月25日の8時半開催の予定でございます。議題等につきましては、今日の議論も踏まえまして、座長代理、事務局長とも調整して連絡させていただきたいと思っております。

最後に、山谷総理補佐官から何かございますか。

山谷総理補佐官 今後の議論の御参考としていただくために、平成12年の「教育改革国民会議報告 - 教育を変える17の提案 - 」を皆様の御自宅に送付させていただきますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

野依座長 それでは、本日は大変御多忙のところ御参加いただきまして、ありがとうございました。今度とも御指導賜りますように、よろしくお願ひ申し上げます。

どうもありがとうございました。